

事業の基礎情報

実施主体	株式会社かngoふらす
事業実施地域	北海道札幌市南区
共創の類型	官民共創・交通事業者間共創・他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉・子ども・子育て・教育・スポーツ・文化・商業・農業・宅配・物流 エネルギー・環境・地域・移住・金融・保険・観光・まちづくり・その他
共創パートナー	独立行政法人都市再生機構、医療法人北志会 札幌ライラック病院、株式会社北海道二十一世紀総合研究所、札幌市
運行形態	交通モード：AIデマンド交通 基づく法制度等：道路運送法の許可・登録を要しない運送
運行主体	株式会社かngoふらす

現状・課題

(地域交通の現状・課題に関する分析)

- 札幌市南区の高齢化率は36.6%と札幌市内10区の中で最も高齢化率が高い状況にある。
- 同区は緑豊かな自然に囲まれている一方で、坂道が多いこと、冬季の路面凍結、利用者数減少や運転手確保の課題による路線バスの減便、地下鉄真駒内駅から区内遠方を結ぶ路線バスが少ない等の多様な要因から、市内他区と比べて加齢に伴う身体機能の低下や病気・障害のある高齢者の外出が難しい傾向にある。
- 外出できないことで社会的孤立となり、メンタルヘルスへの影響もあることが明らかとなっている。

地域公共交通計画への位置づけ
(位置づけ予定を含む)

無

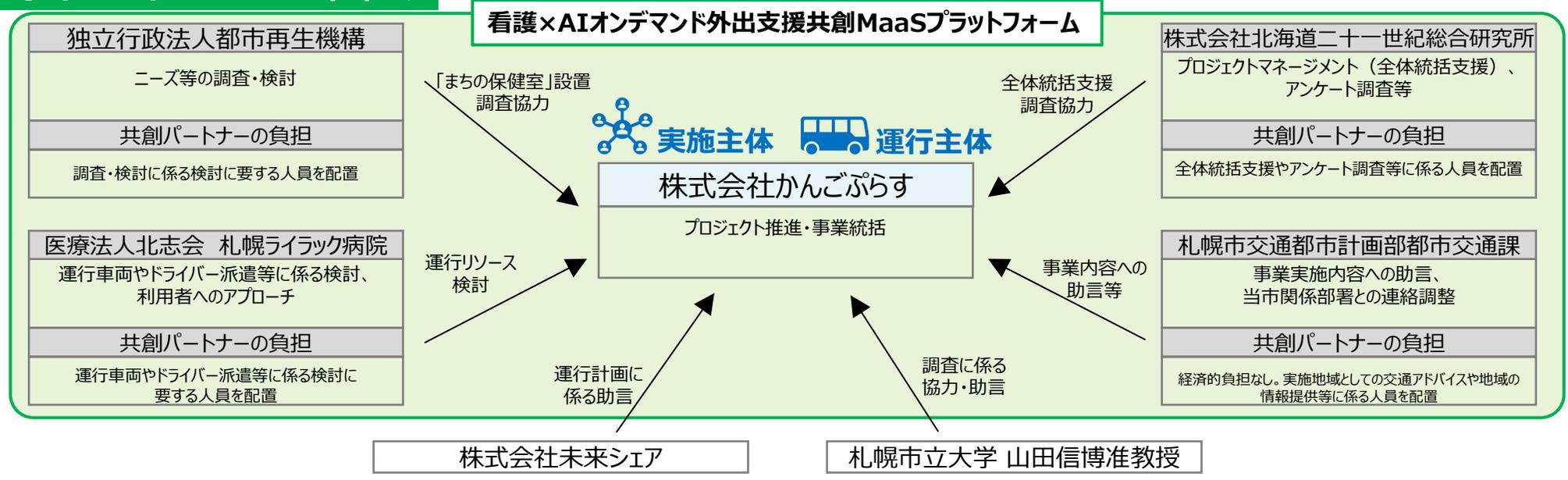
運輸局・運輸支局への事前相談

無

令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無

無

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

（事業の概要）

実施主体である「まちの保健室」を企画・運営するかんごぷらす自ら運行主体となり、「まちの保健室」をハブに利用者の自宅、病院、娯楽施設等をAIオンデマンドシステムを活用してモビリティで結ぶ、利用者の身体状況や体調に合わせた外出支援運行サービスを次年度に実証することを目指し、今年度は、運行サービスのニーズ調査、外出に影響を与える環境要因調査・分析、運行実証に向けたモビリティ・ドライバー等の確保、運行実証モデルの検討等を実施する。

（地域の関係者との連携・協働）

- ・かんごぷらすとUR都市機構が協働して設置予定の「まちの保健室」に付加される機能や対象者を踏まえた運行サービスのモデルづくりが可能。
- ・札幌ライラック病院の参画により、医療機関の視点から本事業への有意義な助言を得られ、保健、介護予防等と医療のサービス連携に係る検討が可能。
- ・行政の参画により、区民の声を効果的に本事業につなげられる可能性や将来的に既存の公共交通機関との連携をより効果的に進めることを期待。

（地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性）

本事業では既存の公共交通事業者と協働することではなく、既存交通事業者の交通事業の妨げにならない範囲での運行実証を目指している。継続的な運行にあたって既存の交通事業者との協働も視野に入れ、交通事業者との意見交換や今後の進め方に対する助言等を頂戴する機会を創出する。

事業実施手順・スケジュール

- ① 補助金交付申請 [かんばんず]
- ① ニーズ調査・環境要因調査項目整理、調査対象整理 [かんばんず、UR都市機構、21総研]
- ② 調査実施 [かんばんず、21総研]
- ③ 調査結果整理・分析 [かんばんず、21総研]
- ④ 実証運行にむけた運行モデル・計画の作成 [共創プラットフォーム]
- ⑤ 実証運行の効果測定項目の整理 [かんばんず、21総研]
- ⑥ 介護予防事業予算の活用に関する調査、全国の先進事例調査等 [かんばんず、21総研]
- ⑦ 運行車両やドライバーの確保等に係る検討、スキーム構築 [かんばんず、札幌ライラック病院]
- ⑧ 実証結果取りまとめ、実績報告 [共創プラットフォーム]

項目	2024年 8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月
①補助金交付申請	→						
①ニーズ調査・環境要因調査項目整理、調査対象整理		→					
②調査実施			→				
③調査結果整理・分析					→		
④実証運行にむけた運行モデル・計画の作成					→		
⑤実証運行の効果測定項目の整理					→		
⑥介護予防事業予算の活用に関する調査、全国の先進事例調査等			→				
⑦運行車両やドライバーの確保等に係る検討、スキーム構築					→		
⑧実証結果取りまとめ、実績報告							→

※実際に運行実証を実施するのは次年度（2025年度）を想定している。

取組の詳細

(地域交通にもたらされると想定される効果)

- 加齢に伴う身体機能の低下や病気・障害のある高齢者の外出頻度の向上
- 既存の公共交通事業を補完する新たな地域交通ニーズ創出の可能性

(地域全体に及ぶと想定される効果)

- 外出促進と「まちの保健室」機能利用によるフレイル予防、重症化予防
- 傾聴やサードプレイスとなる居場所の存在によるメンタルヘルスの安定
- セルフケア支援による体調・体力維持
- 見守りや外出支援による社会的孤立の解消

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

○	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上	貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備	通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

(補助事業実施後の予定)

- 今年度実施する各種調査、検討結果を最大限活用して、次年度の運行実証事業にスムーズに移行する。
- 次年度の運行実証はスモールスタートとしつつ、企業協賛や会費制の導入等の補助金等に頼らない持続可能性を高める方策の検討を進める。
- 継続的な運行にあたって既存の交通事業者との協働も視野に入れ、交通事業者との意見交換や今後の進め方に対する助言等を頂戴する機会を創出し、課題や方向性を整理していく。
- 本事業の将来像に賛同いただける企業や団体等を増やしていくために、ロジックモデルを作成し社会的インパクトを可視化する等のツールを活用した取り組みも行っていく。

資金面	資金調達は行わず自己資金で実施予定
人材面（運転手の確保）	札幌ライラック病院の協力を得て、運行車両並びに運転手を確保する方向で調整を進める。